



このはな

発行所 松山市青少年育成
支援委員協議会
発行人 会長 野間逸元

会長挨拶

松山市青少年育成支援委員協議会 会長

野間逸元



残夏の候、ますます清
祥のこととお喜び申し上げ
ます。皆様には、日頃より
子どもたちの非行防止や健
全育成活動にご協力を賜り、
誠にありがとうございます。
新型コロナウイルスの行動

制限が緩和され、地域の行
事やイベントが増え、街に
は再びにぎわいが戻りつつ
あります。インターネット
やSNSなどが生活の一部
となっていますが、私たち
が日々行っている子どもた
ちへの「愛の一声」をかけ
る活動は、今後さらに重要
になると考えておりますの
で、引き続きご協力のほど
よろしくお願い申し上げます。
さて、私たちの協議会は

昭和42年5月に「松山市少
年補導委員協議会」として
設立され、「松山市青少年
育成支援委員協議会」と名
称を変更し、今年で57年目
を迎えます。また、「愛媛
県補導委員連絡協議会」は
昭和49年に結成され、今年
で50周年を迎えます。これ
もひとえに皆様のご支援の
賜物と感謝申し上げます。
この記念すべき節目に、
来る9月13日(金)に愛媛県
生涯学習センター県民小劇
場にて、「創造と絆、少年
たちの未来を」をテーマに
記念式典を開催いたします。
記念演奏には、普段は警
察本部や警察署で勤務され
ている警察官で構成された
「愛媛県警察音楽隊」にお

願いしております。同音楽
隊は昨年、県内外で年間78
回のミュージックパトロー
ルを行い、約28,000
人の皆様と交流されたそう
です。短い時間ではありま
すが、ぜひご鑑賞いただけ
れば幸いです。
また、記念講演には岡田
武史様をお招きしておりま
す。岡田様は1956年大
阪市生まれ、日本代表を初
のFIFAワールドカップ
出場に導き、2010年の
FIFAワールドカップで
はベスト16に進出するなど、
日本が誇る名監督の一人で
す。現在は、FC今治の運
営会社「株式会社今治・夢
スポーツ」の代表取締役、
日本サッカー協会参与(名

誉役員)、学校法人今治明
徳学園FC今治里山校の学
園長を務めておられます。
FC今治里山校は、「自ら
動き、考え、違いを受け入
れ、仲間と共に社会を変え
る」をスローガンに掲げ、
サッカー人材の育成ではな
く、これからの世界の歴史
を動かす「ヒストリック・
キャプテンシップ」を持つ
タリダーの育成を目指し
ています。強いリーダーを
育てるため、岡田氏が長年
手掛けてきた野外体験教育
をはじめとして、「エラー
& ラーン」でまずはやって
みてそこから学ぶ、実学・
実践を重視した、定期テス
トなし等の独自のカリキュ

ラムを展開していくそうで
す。岡田様の講演「今治か
らの挑戦」では、これまで
の活動や経験を通じて得ら
れた知見を皆様と共有して
いただける予定です。皆様
の今後の活動にとって有益
なものとなることでしょう。
引き続き子供たちの非行
防止や健全育成活動にご協
力をお願い致します。コロ
ナウイルスの各種行動制限
が緩和されましたので、協
議会の活動も再開しており
ます。引き続きのご寄付を
お願い致します。最後にな
りました。これまでご寄
付を頂きました皆様、本当
に有難うございます。

センター所長挨拶

教育支援センター事務所長

池田浩樹



松山市青少年育成支援委
員の皆様におかれましては、
日頃から青少年の健全育成、
並びに非行防止活動にご尽
力いただいておりますこと
に、厚くお礼申し上げます。
私は、本年4月1日から
松山市教育支援センター事
務所長として着任しました。

松山市青少年育成支援委員
の一員として、こどもの健
全育成のため皆様とともに
精一杯尽力してまいります
のでよろしくお願いしま
す。
さて、近年の社会は、優
越的な関係を背景とした不
当な要求という理不尽な行
為が、人間関係の希薄化や
地域社会コミュニティの
衰退などで歯止めがきかず、
社会の混迷を深めるものと
なり、ひいては子どもが
「生きづらい社会」と感じ
る場面に繋がっているよう
にも思います。

また、この数年間の新型
コロナウイルス感染症など
といった予期せぬ変化に、
社会全体の対策が機能せず、
多感な子どもは、未来が描
けない状況に「家庭崩壊」
「居場所がない」という言
葉のもと、大麻や薬物のオ
ーバードーズも横行する
「トータル」に集まる一つの
要因になっているのではな
いかと感じています。
こうした社会環境が常に
変わる中、こどもの健全育
成に向けて、誰一人取り残
さないよう導いていくこと
が、私たち大人の責務であ
ると考えますが、こども問
題への対応は、行政の力だ
けでは解決が難しく、地域
の皆様のご協力が必要不可
欠です。
そのような中、支援委員

の皆様におかれましては、
「愛の一声」をかける巡回
活動をはじめ、こどもの非
行や犯罪被害の未然防止に
つながる活動に献身的に取
り組んでいただき、大変心
強く感じています。
松山市教育委員会といた
しましても、こどもの健全
育成に向けて、子ども育成
条例の基本理念でもある
「社会全体で子どもたちを
はぐくむ」ことができるよ
う、今後も尽力してまいり
ます。
終わりになりますが、松
山市青少年育成支援委員協
議会の今後ますますのご発
展をお祈り申し上げますと
ともに、育成支援委員の皆様
には、引き続き青少年の健
全育成の推進にお力添えを
お願いいたします。

夜市の見廻り

教育支援センター事務所

若宮健嗣

松山市の夏の風物詩であ
る土曜夜市が今年は6月15
日からスタートしました。
大街道、銀天街は多くの
人で賑わいを見せていま
した。初日の「愛のかけパ
トロール」結団式では、多
くの関係団体の皆様が集
まり、こどもたちの街のデ
ビュー戦でもある土曜夜市
をより良いものにしてい
こうと心を一つにし、パ
トロールを開始しました。
巡回活動中、目立ったト
ラブル等はなく、未成年
とおぼしき若者に帰宅を
うながす声掛けを行い、
併せて商店街の清掃活動
を行いま



第1回研修会

拓南中校区 八木千代

5月22日青少年センターにて委嘱状交付式の後、第1回研修会がありました。『青少年育成支援委員の活動について』と題して問題行動班 主査 佐伯賀子氏に講演していただきました。新任者が加わったこともあり、青少年育成支援委員とは・職務・声かけの対象などの話しがあり、地域にあった効果的な活動をとのことでした。

県内の少年非行は小中学生が中心で、コロナ禍を経て増加傾向にあるとのこと。SNSを通じて地域を超えた交友関係が広がり、コロナ禍では自粛傾向だった外出も5類になったことで、行動範囲も広がっているとのことでした。

そんな少年の特性について、大人とは異なることを

理解し、真剣に向き合うことが大切であること。声かけは、トラブル防止のため複数で対応・自分を明らかに・服装や態度に気をつけて行うこと。その時の声かけのテクニック・話しを聞く時や別れる時の注意点などの話もありました。

地域の子どもたちのため見守っている大人がいることを子どもたちが知ることが大切であり、自分の安全を確保し、見守り声かけ活動に協力をお願いしますと締め括られました。

ブロック研修会

城西中校区 戸田 さつき

令和6年6月29日、久万高原町産業文化会館ホールにて市町少年補導委員ブロック別(中予地区)研修大会が開催されました。開会行事の後、ジャーナリストの石川結貴先生をお迎えし「スマホ世代の子どもとどう向き合うか」SNS、ゲーム、ネットいじめの問題を考える」と題して、ご講演を頂きました。

スマホ・ネット利用が、長時間化しており、高校生で7時間以上が3割にもなっているそうです。利用がなぜやめられないのか、誘導される心理を「マズローの欲求5段階」の説明から

始まり、課金の仕組み、SNS以外のあらたな「つながり」の形で楽しいアプリのその先に「危険」はないだろうかと問いかけ、SNSに潜む性的トラブル、SNSいじめについてもわかりやすく例を挙げられました。

SNS いじめを防ぐには「相談できる」環境づくり、早期発見・早期対応が大切であること、「こども自身が考える」ための情報を与えること、大人も勉強

「青少年の非行・被害防止県民大会」

久米中校区 田中郁夫

青少年の非行・被害防止全国強調月間に併せ、去る7月24日、愛媛県生涯学習センターで「令和6年度青少年の非行・被害防止県民大会」が開催されました。

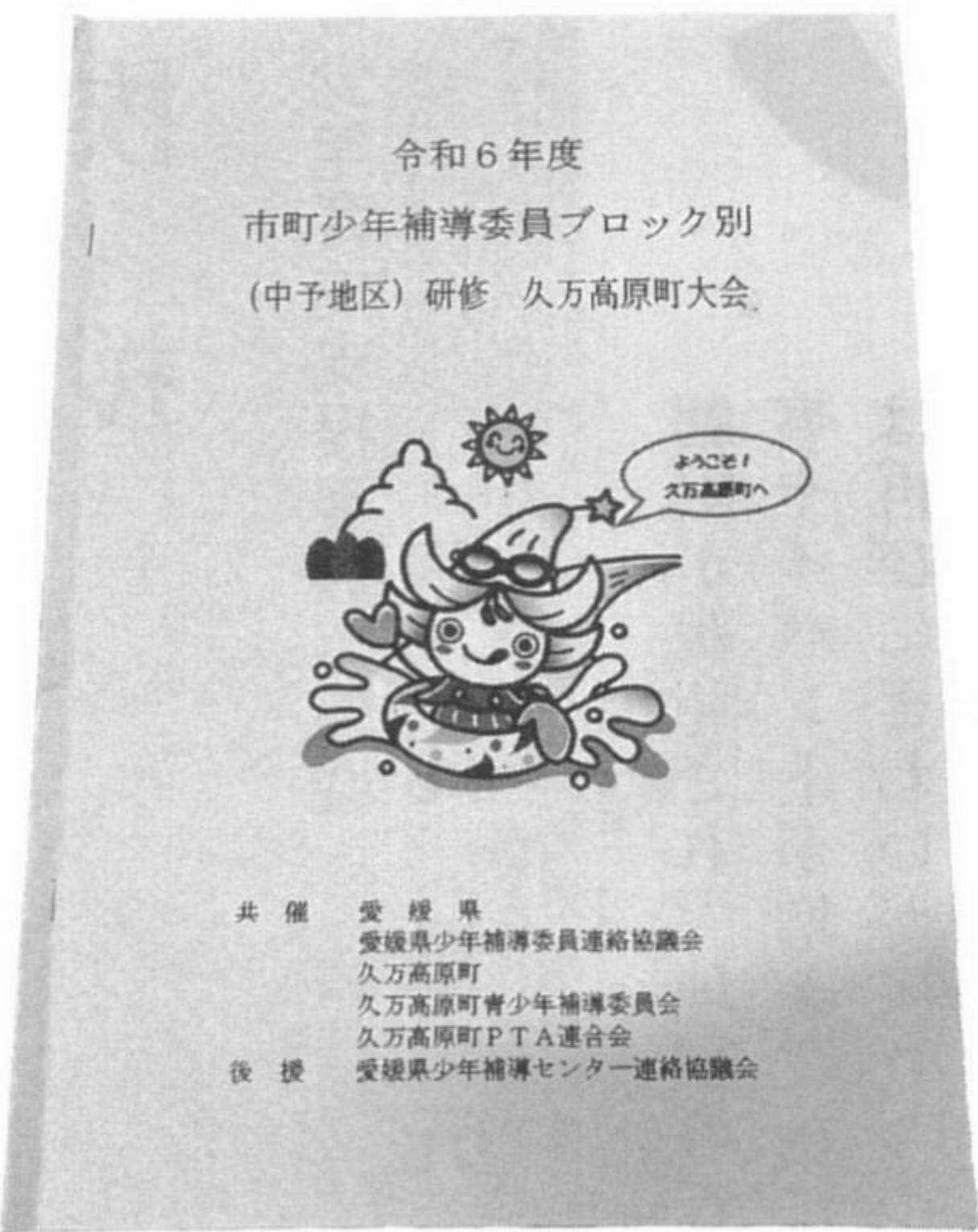
会場には中学生・高校生をはじめ各種団体の関係者の皆さま方が多数参加されていました。

講演では、青少年のインターネットの利用状況について、10歳以上の小学生では70%が自分専用のスマホを持ち、4人に1人が平日5時間以上インターネットを利用し、中学生は93%が自分専用のスマホを持ち、4割が平日5時間以上インターネットを利用しているということから、青少年の多くがインターネットに依存している状況が窺えるとともに、ゲームをする時間等をコントロールできないゲーム障害に陥っている子どもも少なくないとのことでした。

こうしたネットやゲームに依存する背景には若者の生きづらさがあるのではないかと話されていました。

こうした子どもたちに対し、適切に理解・解釈・分析するリテラシー教育が大事であるとの観点から年代に応じた介入の方法を考える必要があると仰っていました。

今回の講演は、医学的な見地からネットやゲームが子どもに与える影響があるのかということを中心にお話していただきましたが、我々の生活に密着したスマホやネットと、いかに正しく付き合っていくことが大事であるかということが理解できました。



第2部は愛媛大学大学院医学系研究科 児童精神医学講座 河邊憲太郎准教授による「ネット・ゲーム依存が子どもに与える影響について」と題して講演が行われました。

ご協賛者様

【個人】 1口 3千円
浅井 正廣様 一万円
【法人】 1口 5千円
ライフアドヴァイス
サービス(株)様 2口

(令和6年4月)

皆様ご協力ありがとうございました。

令和6年3月までの ご協賛者様

【個人】 浅井正廣様・伊賀上照勝様・伊藤敏彦様・宇野綾子様・檜垣實男様・喜安得真様・武田正忠様・東条勝行様・白石泰幸様・姫田美幸様・藤井悟様・宮内統代様・宮崎恵様・匿名(たちはな小校区)

【法人】 アイシン自動車様・栗井タクシー様・石井東小学校PTA様・井上 鋳造所様・(株)愛媛銀行石井支店様・愛媛県配置業協会様・(株)戒田商事様・北四国エアコン様・グローバル環境サービス様・竹山荘様・三盛電設様・中予事務機様・東山保存会様・北条栗井交通様・円クリエーション様・マニユライフ生命様・星企画(株)様・ライフアドヴァイス様・ライフアッドコッタ様・リコージャパ(株)愛媛支社様

ご協力ありがとうございました。

《協賛金のお願い》

個人	一口
3000円	

団体・法人	一口
5000円	

(法人様は出来ましたら2口以上でお願いいたします。)

伊予銀行	本店営業部
普通	4803415

愛媛銀行	本店営業部
普通	0960155

愛媛信用金庫本店営業部	
普通	1226932

松山市農業協同組合本所	
普通	0039804

口座名 松山市青少年育成支援委員協議会

編集後記

「このはな」の発行にあたり、ご協力頂いた皆様並びに原稿をお寄せ頂いた皆様には心よりお礼申し上げます。

今後とも育成支援委員相互の情報共有ができるよう、紙面の充実に努めてまいりますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

広報部一同

